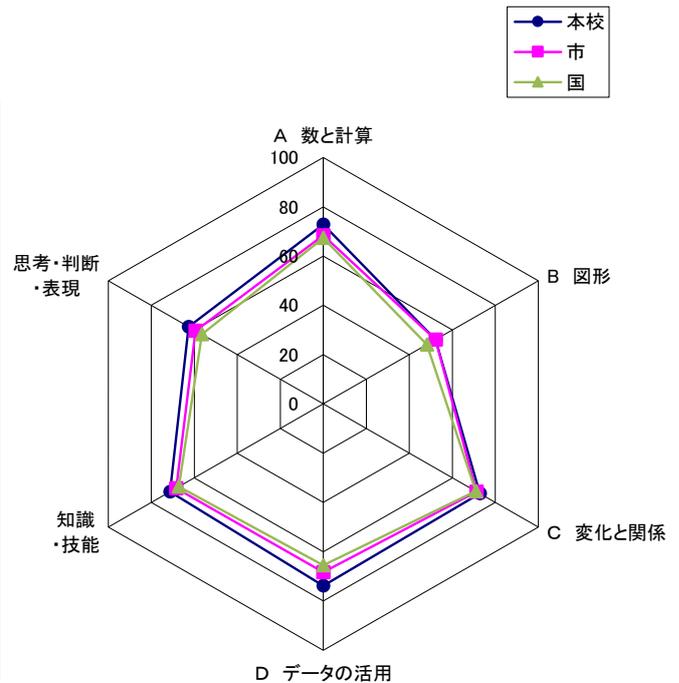


# 宇都宮市立横川中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	72.8	68.4	67.3
	B 図形	52.2	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	72.8	71.2	70.9
	D データの活用	73.8	68.3	65.5
観点	知識・技能	71.3	68.4	67.2
	思考・判断・表現	62.7	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○数と計算の平均正答率は72.8%で、全国平均より5.5ポイント上回った。 ●( )を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる問題の正答率は全国平均を、0.7ポイント下回った。	・示された場面において、見通しをもち、目的に合った数の処理の仕方をするのが大切である。問題の求められていることが何なのかを的確に捉え、概数を使って見積もることの意味やよさを実感させていきたい。 ・生活場面に关わる具体的な問題を処理できるようにするために、目的に応じた数学的活動を計画的に取り入れ、繰り返し指導していく。
B 図形	○図形の平均正答率は52.2%で、全国平均より4ポイント高い。 ○テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、理由を書く問題の正答率は30.4%で、全国平均よりも9.6ポイント高い。 ●テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く問題の正答率は84.8%で、全国平均より2.4ポイント低い。	・図形の形は分かるが、図形を構成する要素やそれらの関係に着目し、形について構成要素を使って説明することが難しい。日頃から言語化を大切に授業を行い、自分の言葉で説明できるように指導していく。
C 変化と関係	○変化と関係の平均正答率は72.8%で、全国平均より1.9ポイント高い。 ○示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ問題では、全国平均より14.8ポイント上回った。 ●5脚の椅子を重ねたときの高さを求める問題の正答率は84.8%で、全国平均より8.7ポイント低い。	・割合を用いた学習や、伴って変わる2つの数量について変化の特徴を読み取る学習では、日常の具体的な場面に対応させながら、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したり、比例の関係を用いて未知の数量を求めたりする学習を丁寧に繰り返し指導する。
D データの活用	○データの活用の平均正答率は73.8%で、全国平均より8.3ポイント高い。 ○グラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して記述する問題の正答率は70.9%で、全国平均より14.7ポイント高い。 ○「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかをみる問題では、全国平均より1.5ポイント上回った。	・表の意味や傾向は理解している。さらに、全体と部分の関係に着目して、数量関係を式に表すことができるように指導していく。 ・算数の学習では、「以上」「以下」「未満」「より大きい」「より小さい」などの言葉が使用される。意味が分かった上で、言葉と記号を一致させ、混同しないよう指導をする。